

い し ず え

全損保日勤外勤支部 東日本合同職場会ニュース 09 - 15

2009年 4月21日 (発行) 首都分会組対部

札幌要請行動

4月10日に開催された北海道金融労働組合共闘会議の要請行動に、今回も日勤外勤支部から2名が参加しました。北海道銀行・ジブラルタ生命・労働局・財務局、そして東京海上日勤へ要請を行いました。参加者は12名で、うち全損保組合員は4名でした。

労働局では、「外勤社員制度廃止は解雇に等しいにもかかわらず、会社は経営の専権事項と言い張り、話し合おうともしなかった。こんな労働法を無視する行為がまかり通っているのですか」と訴えました。また、財務局でも「行き過ぎた利益第一主義が保険金の不払い問題にもつながっていった。コンプライアンスの観点からも、直販社員による保険募集の制度があってもよい」と要請しました。

今回の要請も応接室に通され、ていねいに話しを聞いてもらいました。特に、ジブラルタ生命はアポなしで行きましたが、12名全員が応接室に通されました。それにひきかえ、東京海上日勤は、いつも通り支店前の歩道から中へ一歩も入れようとしませんでした。「地元の労働組合の方が要請にこられているのだから、中に通すのが礼儀ではないのか」「当社と保険を契約している、お客様もいるのに、中に入れないのか」と抗議しましたが、「本社の問題」と言うだけで、納得できる説明はありませんでした。この企業に働くものとして、まったく恥ずかしいと感じました。結局、本社へ必ず渡すようにと、その場で要請書を読み上げ手渡しましたが、北海道金融共闘の方々も、毎回の失礼な対応に憤慨され、次回から要請の方法を変えようと言われたほどです。会社の冷たい対応が、

私たちのたたかいへの応援団を確実に増やしています。

翌日の4月11日は、地元の全損保の仲間10名とポスティングをおこない、7,500枚のビラをまきました。翌週に、ビラを見た北海道の方から、本部に激励の電話が入ったそうです。会社の行っていることは、誰の目から見ても「おかしい」「間違っている」と思われることです。私たちのたたかいは確実に広まっています。がんばりましょう。

以上